

「バイオビジネスの現状と将来の展望」

講師 軽部 征夫氏 東京大学国際産学・共同研究センター センター長

要約: Abstract

バイオ分野の市場、成長、企業、雇用、研究者、そして投資額に於いて、日本はアメリカの後塵を拝している。

遺伝子解析・組み換え技術の開発・進歩に伴い、大きな可能性が生まれる。医療のオーダーメイド化が可能となり、遺伝子治療の市場拡大が見込まれる。ただし、関連するクローン技術には可能性とともに倫理上の課題もある。

米国バイオビジネスはベンチャー企業が主導している。ベンチャー企業が国家事業に先んじて遺伝子解析を成し遂げている。

バイオは製品開発のアイデアが成功を左右する。研究期間は長いものの、基礎研究の結果がすぐに商業化できるという特徴がある。開発リスクが大きく大企業は参入できないため、ベンチャーが米国バイオビジネスの主役となっている。また、背景には資金提供者たるベンチャーキャピタルの存在もある。

ベンチャーの人材戦略は成功の重要な鍵である。また、ベンチャーはその成長段階に合わせてダイナミックに組織を改編・運営して成功を導いている。

今後もバイオは産業発展の重要な牽引車である。

以上